
桜

織田一菜

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜

【Nコード】

N7033C

【作者名】

織田一菜

【あらすじ】

詩です。（実話ですが）ぜひ見てみて下さい

そこはぽっかりとあいていた
まるで私の心のように…
ぽっかりおいたその場所は
反抗するように冷たい強い風が
私の周りを舞っている
まるで私の心のように…

あなたは何故
私をおいて先にいくの？
いつもいつも先にいたあなたを
もう二度と追いつくことができないなんて…

あなたは何故
私をおいて先にいくの？
追いつくまで待っててやるって言ったのに
その約束守らずにあなた先に行ってしまった…

氷のように冷え切った心を
暖めてくれるものは何もなくて
彼と私が愛した桜も
今はもう無くて
あった時は気づけなかった
こんなに大切だったなんて
なくなつて初めて分かった
わたしにどれだけ大切なのか…

あなたは何故

私をおいて先にいくの？

いつも早く追いつこうとしてたけど
もうそれも二度とかなわない

あなたは何故

私をおいて先にいくの？

さよならも言わずに私の目の前から
いなくなった…

あなたがいたころみた桜は

とてもとても美しかったけど

それよりあなたを見たかったから

桜はほとんど見なかった

あの桜吹雪は

とてもとても美しかったけど

あなたはもつと美しかったのに

あたしの前から消えてしまった

あなたは何故

私をおいて先にいったの？

あなたは気づかなかったの？

私があなを

思うこの気持ち

分かってる

無理だつてことは

けれど

神様がいるのならば

もう一度でいいから

あなたと会いたい

それだけでいいから

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7033c/>

桜

2010年10月11日15時49分発行